

歴史都市・文化遺産の継承と保全のための政策研究プロジェクト

プロジェクト代表者：政策科学部・教授 鐘ヶ江 秀彦

【研究計画の概要】

世界遺産を始めとする文化遺産の観光と文化遺産防災を両立させる政策に関する研究課題を検討するとともに、世界遺産・文化財の保全・継承のための政策、予算計画ならびに寄付拡大のための方策に関する研究を実施する。

今年は特に、以下の2点を調査研究する。

- 1) 文化遺産の継承のためには、その保護を担保するバッファゾーンを含む総合的な歴史都市の防災政策ならびに整備計画が必要であり、産官学民が参加した「バッファゾーン防災計画」を策定するために考慮に入れるべき重要な検討事項を今後5年間にわたり明らかにする。このため姫路城下をケーススタディとしてその検討のための基礎資料の収集、姫路市との協議、今後の調査研究のための基礎調査分析を行う。
- 2) 観光客の円滑な避難は人命だけでなく、被災後の迅速な文化遺産消火や動産遺産の安全な場所への移動につながることから、安全な避難に寄与する事前に整えておくべき施設や避難システムなどから構成される観光地の避難計画を5年後を目処に最終的に提案する。このため、今年からアユタヤ遺跡の洪水被災の基礎資料収集と、カウンターパートのタマサート大学との共同研究の準備に着手する。

【研究成果】

I. 研究成果の概要

世界遺産を始めとする文化遺産の観光と文化遺産防災を両立させる政策に関する研究課題を検討するとともに、世界遺産・文化財の保全・継承のための政策、予算計画ならびに寄付拡大のための方策に関する研究を実施した。

今年は特に、以下の2点を調査研究の重点においた。

- 1) 文化遺産の継承のためには、その保護を担保するバッファゾーンを含む総合的な歴史都市の防災政策ならびに整備計画が必要であり、産官学民が参加した「バッファゾーン防災計画」を策定するために考慮に入れるべき重要な検討事項を今後5年間にわたり明らかにする。このため姫路城下をケーススタディとしてその検討のための基礎資料の収集、姫路市との協議、今後の調査研究のための基礎調査分析を行った。
- 2) 観光客の円滑な避難は人命だけでなく、被災後の迅速な文化遺産消火や動産遺産の安全な場所への移動につながることから、安全な避難に寄与する事前に整えておくべき施設や避難システムなどから構成される観光地の避難計画について5年後を目処に最終的に提案するため、アユタヤ遺跡の洪水被災の基礎資料収集と、カウンターパートのタマサート大学との共同研究の準備に2月以降に着手する予定である。

Ⅱ. 研究成果の詳細

4～10月 課題1)、2)の資料収集を行った。

6～12月 課題1)、2)の資料整理を行った。

8～1月 現地打ち合わせと現地調査の実施(姫路市 6/19、7/22 実施、タイ王国年度末に延期)、
ならびに、課題1)、2)の資料分析中。

1) 3月末までに実施予定

2) 日本を代表する観光地である姫路城を事例として、観光ルートの変更、誘導員、時間差誘導などの対策のため、観光客の避難開始時における情報源と、経路選択の基準および避難目的地の選択に関する意識決定について明らかにするために、姫路城に来訪した観光客に対する対面調査を実施した。分析結果は歴史都市・文化遺産の継承と保全のための政策研究部会にまとめて掲示してあるので、参照されたし。

Ⅲ. 今後の研究計画・展開

1～3月 現地打ち合わせと現地調査(姫路市2月を予定、タイ王国2月と3月を予定)